

古代南九州における 仏教の広がり

企画展



芝原遺跡(南さつま市)出土 三口瓶
鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵



小倉畑遺跡(姶良市)出土 香炉
鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵



白樫野遺跡(南さつま市)出土 蔵骨器
南さつま市教育委員会蔵



小苗代(伊佐市)採集瓦
寺師コレクション 黎明館蔵



／鹿児島県では非常に珍しい飛鳥時代の資料／

〔県指定文化財〕
吹上町田尻の金銅菩薩立像
吹上町御観音講(日置市)蔵
黎明館保管
高さ 15.15cm



成川式土器 黎明館蔵



薩摩国分寺跡(薩摩川内市)出土 創建時軒先瓦
薩摩川内市川内歴史資料館蔵



荒瀬(伊佐市)出土蔵骨器
寺師コレクション 黎明館蔵



『三国名勝図会』
寺師コレクション 黎明館蔵

第1章 仏教が広まる以前の墓 ー南九州の古墳ー

南九州に仏教が伝わってくる以前の、南九州の多様な古墳(前方後円墳・板石積石棺墓・地下式横穴墓・土坑墓)について、墓制や副葬品などを中心に紹介します。また、南九州の古墳時代の土器である成川式土器についても紹介します。

第2章 南九州における仏教と寺院

日本に仏教が伝来し、全国に広がっていく過程を『日本書紀』の記事を中心に、また南九州における仏教の展開を『続日本紀』などの資料と薩摩国分寺や大隅国分寺などの瓦とともに紹介します。

第3章 南九州における仏教の広がりー仏教が広がったあとの葬制ー

薩摩国分寺や大隅国分寺以外の古代寺院は明らかになっていませんが、仏教の痕跡を示すものとして、香炉や三口瓶(仏前に花を供える瓶)、蔵骨器などが発掘されています。仏教の痕跡を示す資料について紹介します。

第4章 古代の伝承寺院

明治初年の廃仏毀釈によって、薩摩藩内の仏教寺院にあった貴重な資料は、ことごとく消失してしまい、その痕跡をたどることはできません。しかし、江戸時代後期にまとめられた総合地誌『三国名勝図会』には古代創建を思わせる寺院の記述があり、その一端を紹介します。

令和7年
9月11日(木)ー11月30日(日) 黎明館3階 企画展示室

日本に仏教が伝来してから約150年後の7世紀後半に南九州にも仏教が伝わってきます。その時期はちょうど古代律令国家の形成期にあたります。国家による仏教興隆策により全国的に寺院が建立され、火葬の風習とともに蔵骨器(骨壺)も登場してきます。本企画展では、仏教が南九州へどのように広まり浸透していくのかを葬送の変化を中心に紹介します。

関連イベント 申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。

学芸講座(展示解説講座)「古代南九州における仏教の広がり」
| 講師 | 黎明館主査 竹添 和寿
| 日時 | 11月15日(土) 13:30 ~ 15:00 | 会場 | 黎明館3階 講座室
事前申込制(電子申請または往復ハガキ) 【応募期間:10月16日(木)~ 10月30日(木)】
講座後に、企画展示室で展示解説を行います(要団体入館料)

展示解説
| 日時 | 9月21日(日)、10月5日(日)、10月26日(日)、11月29日(土)
各日とも13:30 ~ 14:10

| 会場 | 黎明館3階 企画展示室 (要入館料、事前申込不要)